

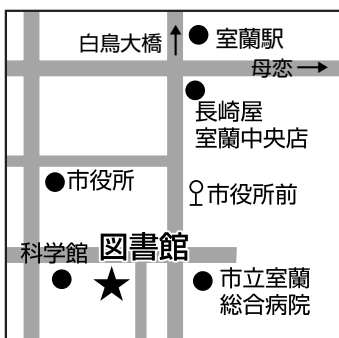
みんなので支え合う図書館 本との出会いが待っている

知がさわぐ 図書館に行こう



図書館をステージに市民ボランティアが活躍している。市民の寄付金などで購入した貴重な美術書や全集などを収集・展示している「ふくろう文庫」を支援する「ふくろうの会」や「同文庫ウオッチャーズ」のほか、輪西分室の夜間の開館時間延長をボランティアで受け持っている「わいの会」、英語の楽しさを絵本の読み聞かせで子どもたちに伝えようと取り組む「瀧澤シエーン」さん。市民の皆さんが、市からの呼びかけに応じるのではなく、自主的に「楽しむ」ことを求めて、知の拠点である図書館で「市民のために」サービス奉仕している。

市民の力を発揮できる場となっている図書館。各年代や暮らしの中で必要な知的情報を提供し、知識を広げ、教養を身につけてもらう場としての図書館の役割の大きさを知ってもらうために「知の交差点」という新たな市民の取り組みが行われている。市民協働の新たなステージで活動する皆さんを紹介します。



図書館 ☎ 1658
火～金曜日 9時30分～18時
土・日曜日 9時30分～17時



わにの会代表 **岡原 正司**さん

「皆さんがより本に触られるように」と、本来なら家庭でくつろぐ夕べに「図書館人」として責任と誠意をもって活動しています。

1日2時間あるいは3時間、1人月に2回程度という小さなボランティアですが、皆さんの心に大きく残ってほしい。「あいてよかった。ありがとう」という言葉を励みに、私たちは、仕事帰りや買い物ついでに利用できる輪西分室で、皆さんと本との出会いをサポートしています。



輪西分室 ☎06947
火～日曜日 9時30分～20時
※そのほか、本輪西分室（港北町1-6-1、☎08340）と白鳥台分室（白鳥台5-2-1、☎091299）があります（開館時間は図書館と同じ）。



わにの会の皆さん。輪西分室の20時までの開館時間延長を実現し、ボランティアで行っています



市民が運営する 市民の図書館

平成14年に市民会館が改築され、図書館輪西分室も移転・入居した。市民会館は商業施設にも連結して利用性が高く、輪西分室の利用者も増加した。しかし、輪西分室は平日18時、土・日曜日は17時までの開館時間のため、20時まで営業している商業施設利用者などから、時間延長を望む声が寄せられていた。市で時間延長するには、人件費などの経費が増すため、実現が難しい状況にあったが、輪西地区の住民たちが「ボランティアで、時間延長を実現できないか」と立ち上がった。住民たちは、ボランティアで協力してくれる17人のメンバーを集め「わにの会」を発足。図書館業務の実習を行い、平成15年9月からボランティアによる輪西分室の時間延長（20時まで）がスタートした。開館時間の延長に伴い、利用者数、貸し出し数も増加。市民が運営する市民の図書館という、全国でも類のない取り組みは、確実に浸透している。

絵本の読み聞かせなどは、各地の図書館で行われており、室蘭でも赤ちゃんライブラリーなどをボランティアの協力により毎月行っている。そのほか、地域文庫である「鉄子文庫」や「たんぼぼ文庫」、育児支援グループの「ワニワニクラブの仲間達の会」の皆さんなどが応援してくれている。しかし、英語の読み聞かせを行っている図書館は少ない。しかもボランティアでの開催。室蘭ならではの取り組みだ。



絵本の楽しさは言葉の壁を超えて伝わる。子どもたちは英語の世界に興味津々



絵本の世界で 英語に触れてみよう

読み聞かせのご案内



図書館では、おはなし会や赤ちゃんライブラリー、英語のおはなし会を開催しています。毎月、広報紙でお知らせしています。ご覧ください。今月は10ページに掲載。

子どもたちにとって、外国の絵本は初めての出会いなので、興味津々のようです。食事の様子や景色の違いなど、異文化を楽しく学ぶことは良い経験になると思います。

英語を使った絵本のお話ですが、身振り手振りで伝わるものです。絵本に描かれた犬を指して「ドッグ」と教えると、子どもたちは、大きな声で繰り返してくれます。楽しみながら英語に触れることが大切ですね。

見て楽しめる絵本は言葉をイメージしやすいので、言葉の壁を超えて伝わる部分が多いと思います。絵本の楽しさに国境はないですね。



たまざわ **瀧澤ジェーン**さん